

高齢者と若年者の外出意識に関する研究

名城大学 横幕 貴英, 名城大学大学院 正員 小倉 俊臣, 名城大学 正員 栗本 譲
名城大学大学院 学生員 滝川 将宏, 名城大学大学院 学生員 青木 智己

1. はじめに

我が国では諸外国でも例を見ないような高齢社会を迎えることが予想されている。総務省統計局によれば、平成 14 年の 65 歳の高齢者数は約 2,362 万人で高齢者比率は 18.5%となっている。また、人口問題研究所の推計によると 2050 年において高齢者比率は 30~40%と予想されている。今後も高齢化の傾向が続くと予想されている我が国において、高齢者の社会参加はますます重要な問題となっている。平成 10 年に総務庁がおこなった『高齢者の地域社会への参加に関する意識調査』では、高齢者の社会活動に対する参加意欲が 62.7%と、高齢者の社会参加への意欲の高さが伺える。

そこで、本研究では、高齢者の外出意識と歩行に関する調査を実施し、高齢者が外出時に感じている事項を明らかとし、さらに若年者へも調査を実施し高齢者との意識の違いを把握する。

2. 高齢者の歩行に関する意識

(1) 歩行に関するアンケート

愛知・岐阜・三重県内に居住する 65 歳以上の高齢者 645 名を対象として『歩行に関するアンケート』を実施し、記憶力と外出に関する項目(有効回答数:580)について 5 段階で自己評価してもらった。質問項目は、記憶力・地名の記憶・人名の記憶・目的を持って出歩く・出歩くのが好き・記憶作業の 6 項目である。この結果を用いて数量化理論Ⅲ類を用いて分析をおこなった。この時の被験者のサンプルプロットが図-1 である。なお、近似直線は、横軸の平均値から正方向と負方向とで近似したものであり、破線は後述する若年者の近似直線である。ここで、横軸は質問項目の“悪い”や“嫌い”等の回答が正で、“良い”や“好き”等の回答が負であったため、『自己評価』に関する軸とし、正方向が「悪い」、負方向が「良い」とした。縦軸は質問項目の“良い”や“悪い”の回答が正で、“普通”が負であったため、回答の『明確度』に関する軸と考え、正方向が“良い”や“悪い”等の「明確」である回答、負方向が「曖昧」である回答とした。

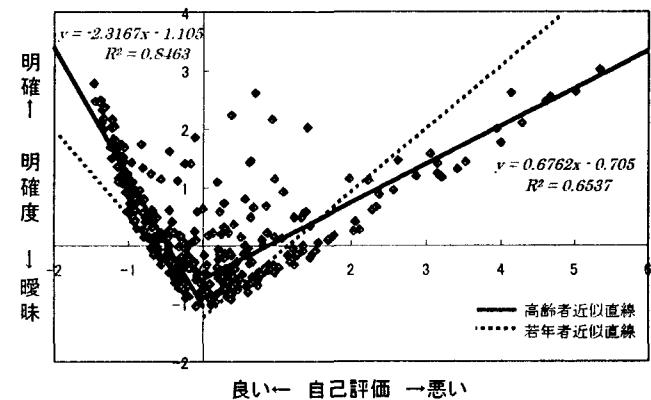


図-1 高齢者のサンプルスコア

表-1 高齢者の目的地への到着に関する項目

設問	回 答 数						
到着できるか	できる	ややできる	普通	ややできない	できない	不明	合計
男性	188	58	76	20	8	5	355
割合	53.0%	16.3%	21.4%	5.6%	2.3%	1.4%	100%
女性	109	46	81	30	19	5	290
割合	37.6%	15.9%	27.9%	10.3%	6.6%	1.7%	100%
到着する自信	ある	ややある	普通	ややない	ない	不明	合計
男性	175	68	70	27	12	3	355
割合	49.3%	19.2%	19.7%	7.6%	3.4%	0.8%	100%
女性	93	60	71	36	27	3	290
割合	32.1%	20.7%	24.5%	12.4%	9.3%	1.0%	100%
迷った経験があるか	ある	ややある	普通	ややない	ない	不明	合計
男性	72	108	67	35	69	4	355
割合	20.3%	30.4%	18.9%	9.9%	19.4%	1.1%	100%
女性	66	80	49	13	79	3	290
割合	22.8%	27.6%	16.9%	4.5%	27.2%	1.0%	100%

図-1の分布状況を見ると、自己評価が“悪い”と明確に回答するよりも“良い”と明確に回答する傾向が強く、記憶や歩行に自信を持っていることがわかる。

(2) 歩行に関する意識

高齢者が初めての場所へ出かける際に、「目的地へ到着できるか」等の質問項目の回答結果を表-1に示す。高齢者は「目的地に正しく到着できるか」に“できる”,「到着する自信があるか」に“ある”と回答する割合が高くなっている。その一方で、「迷った経験があるか」には“ある”,“ややある”と回答する割合も高くなっている。また、女性は男性に比べて「目的地へ到着できるか」と「到着する自信があるか」では“ある”の回答が少なく,“ない”の回答が多い。さらに,「迷った経験があるか」の“ない”の回答も多くなっている。

表-2 記憶に関する項目

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	合計
記憶力	男性	47	59	190	42	12	350
	割合	13.4%	16.9%	54.3%	12.0%	3.4%	100%
	女性	20	34	169	51	11	285
	割合	7.0%	11.9%	59.3%	17.9%	3.9%	100%
地名記憶	男性	52	58	188	45	9	352
	割合	14.8%	16.5%	53.4%	12.8%	2.6%	100%
	女性	21	34	160	64	9	288
	割合	7.3%	11.8%	55.6%	22.2%	3.1%	100%
人名記憶	男性	35	35	191	76	14	351
	割合	10.0%	10.0%	54.4%	21.7%	4.0%	100%
	女性	22	29	154	71	12	288
	割合	7.6%	10.1%	53.5%	24.7%	4.2%	100%

次に、記憶に関する項目を調べた。その結果を表-2に示す。男性は、「記憶力」が「良い」や「やや良い」と答える人が多く、逆に女性は「悪い」や「やや悪い」と感じている人が多い。特に、「地名の記憶」では「良い」と答える割合は女性が男性の半分であり、「やや悪い」と回答する割合は女性が男性よりも10%近く上回っている。しかし、「人名の記憶」では、性別によって差が見られない。このことから、女性は男性に比べて「記憶力」に自信が無く、特に「地名」を覚えるのが苦手ということが明らかとなった。

3. 高齢者と若年者の歩行に関する意識の違い

(1) 若年者の歩行に関するアンケート

高齢者の歩行に関する意識と若年者の歩行に関する意識を比較するため、高齢者と同様の質問項目で10歳代後半から20歳代後半の若年者672名に対してアンケート調査をおこなった。

高齢者と同様の質問項目による自己評価結果から数量化理論Ⅲ類を用いて分析をおこなった。この時の被験者のサンプルプロットが図-2である。近似直線は、横軸の平均値で正方向と負方向で近似している。また、軸の評価は高齢者と同様の結果が得られたため、横軸は『自己評価』、縦軸は『明確度』とした。

若年者は、縦軸の負の範囲に広く分布しており、曖昧に回答する傾向が強いことがわかる。

(2) 若年者と高齢者の歩行に関する意識の違い

若年者と高齢者について歩行に関する意識を比較すると、高齢者は自己評価を「悪い」と明確に答える傾向が緩やかであり、逆に「良い」と明確に回答する傾向が強い。一方では、若年者は「悪い」と明確に答える傾向が強く、逆に「良い」と明確に回答する傾向が緩やかである。このことは、高齢者は記憶や歩行に

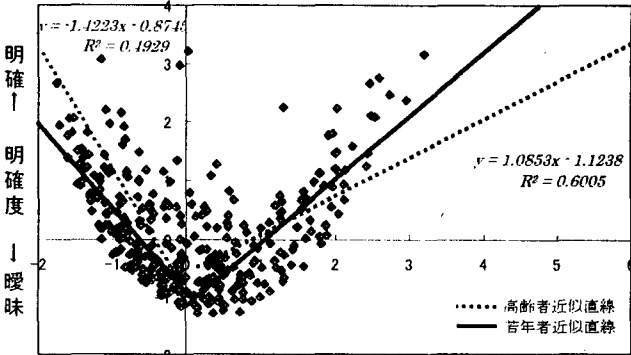


図-2 若年者のサンプルスコア

表-3 若年者の目的地への到着に関する項目

設問	回答数						
到着できるか	できる	ややできる	普通	ややできない	できない	不明	合計
男性	228	149	130	56	21	4	588
割合	38.8%	25.3%	22.1%	9.5%	3.6%	0.7%	100%
女性	11	32	17	17	6	1	84
割合	13.1%	38.1%	20.2%	20.2%	7.1%	1.2%	100%
到着する自信	ある	ややある	普通	ややない	ない	不明	合計
男性	230	147	116	65	26	4	588
割合	39.1%	25.0%	19.7%	11.1%	4.4%	0.7%	100%
女性	11	21	20	21	10	1	84
割合	13.1%	25.0%	23.8%	25.0%	11.9%	1.2%	100%
迷った経験がある	ある	ややある	普通	ややない	ない	不明	合計
男性	163	203	88	109	20	5	588
割合	27.7%	34.5%	15.0%	18.5%	3.4%	0.9%	100%
女性	25	36	9	12	1	1	84
割合	29.8%	42.9%	10.7%	14.3%	1.2%	1.2%	100%

関しての若年者よりも自信が強いことを示している。

表-3に若年者が初めての場所へ出かける際に、「目的地へ到着できるか」等の設問の回答結果を示す。高齢者と比べて「目的地に正しく到着できるか」に“できる”の回答が少なく、“ややできる”の回答が多くなっているが、両者を合計するとほぼ同じ割合である。しかしながら、「迷った経験があるか」を見ると、“ある”と“ややある”を合計すると若年者の比率が高く、迷った経験を持つため回答に自信がないようである。

4. おわりに

本研究では、高齢者に対して歩行に関するアンケートを実施し、外出や記憶に関して性別や自己評価の認識に差異があることがわかった。さらに、若年者へも同様のアンケートを実施して高齢者との意識の違いを把握した。この結果、高齢者は歩行に自信を強く持っている傾向がわかった。しかし、実際の記憶力は体力とともに低下しているため、安心して外出するために記憶を補う情報の提供などが必要であると思われる。